㊦橘小 楠見圭悟 荒子小 小山晃平 比良小 大島大樹 桃山小 山田未来

数学的な見方・考え方を働かせ、自分に合ったペースで学び続ける児童の育成

1 研究のねらい

本研究では、数学的な見方・考え方を働かせながら、自分に合ったペースで学び続ける児童の育成を目指していく。本グループの考える「数学的な見方・考え方を働かせ、自分に合ったペースで学び続ける児童」とは、どんな既習事項が使えるように着目して課題解決するとともに、自分の理解度や問題を解く速度に合わせて学習を進めることができる児童のことである。

しかし、本グループの学級の実態を見ると、「そもそもどのようにして解いたらよいか分からない」「授業の進度が速くて授業についていくことができない」という児童が多く見られる。

これは、これまでの指導で、導入の段階でどんな既習事項が使えるように着目することをしてこなかったり、児童の理解度や解く速度に応じた授業の進め方をしてこなかったりしたことが原因であると考えられる。

そこで、本グループでは、本研究のゴールである数学的な見方・考え方を働かせながら、自分に合ったペースで学び続ける児童を育成するために、どんな既習事項が使えるように着目して課題解決するための工夫、および、自分の理解度や問題を解く速度に合わせて学習を進めることができる学習環境の工夫の2つの視点に主眼を置き、次のような手立てを講じることで研究を進めていく。

2 研究の手立て

手立て① どの既習事項が使えるように着目して課題解決するための工夫

単元を通して、学習を進める中で見つけた、課題解決に使えるような既習事項を「数学的な見方・考え方」として教室に掲示したり、ロイロノートのカードに記入したりするなどして、徐々に貯めていく。また、毎授業の導入で「前回の問題と違う（同じ）ところは？」という発問をし、本時問題と前時問題とを比較する。その後、単元を通して貯めていった「数学的な見方・考え方」の中から、本時問題の解決に使える、関係のありそうなものを考えることで、どんな既習事項が使えるように着目して課題解決できるようにする。

手立て② 自分の理解度や問題を解く速度に合わせて学習を進めることができる学習環境の工夫

授業時間内の一部や、単元の一部で自由進度学習を取り入れる。算数が苦手な児童は自分のペースで課題解決に向けて取り組み、算数が得意な児童はどんどん先へ進みたくさんの問題に取り組むことで、どの児童も自分の学習を制限されず学び続けることができるようにする。

- 【参考文献】 名古屋市教育委員会（2023）「ナゴヤ学びのコンパス」
樋口万太郎（2024）『自律した学習者を育てる算数授業のカード実践』東洋館出版